



ポストCovid-19の海外 事業展開



Covid-19の時代を考える

- Covid-19という世界災禍
- 災禍の傷跡(1)：時間軸と空間軸
- 災禍の傷跡(2)：変化する思考
- ポストCovid-19: 新たな価値の浮上
- 21世紀の産業政策：新しい食品産業育成

Covid-19という世界災禍

- 不都合な真実①：国際協調なきグローバリゼーション（≠ITバブル崩壊、いわゆるリーマンショック、WHO・WTOの機能不全）
- 不都合な真実②：続く先進国の内政不安、G0の時代
 - ←社会的脆弱層への被害集中（貧困層（←住宅バブルのツケ）、
Essential workers、非正規労働者（←社会保険・医療保険）、
高齢者・基礎疾患保持者、IT弱者（←教育の機会格差・健康格差
・所得格差の悪循環）
- 不都合な真実③：統制社会の浮上（5G時代と「外部性の暴走」、
国家資本主義のスタンダード拡散、デジタル通貨）
 - ←米中新型冷戦の枠組み、行き詰まる安保・経済体制の矛盾（アジア）

災禍の傷跡(1)：時間軸と空間軸

- 時間軸：

- (1) 遅れる経済回復（災禍の広がり、デジタルバブルの限界、サプライ・チェーンの混乱、失業と所得低下の拡散、債務問題の浮上）
- (2) 見えない展望←払底する先進国の経済手段
- (3) 限界ある需要創出←既存産業の落ち込み（サービス業）、イノベーションを巡る構造的限界（ex. ワクチン・治療薬開発）

- 空間軸：

- (1) 世界的拡散（人の移動＞モノ・サービス、一次産品価格下落）
- (2) 東アジアの台頭、日欧米の相対的没落
- (3) ブロック経済化、地政学の復活

IMFの世界経済展望(2020年4月)

2020年4月「世界経済見通し(WEO)」

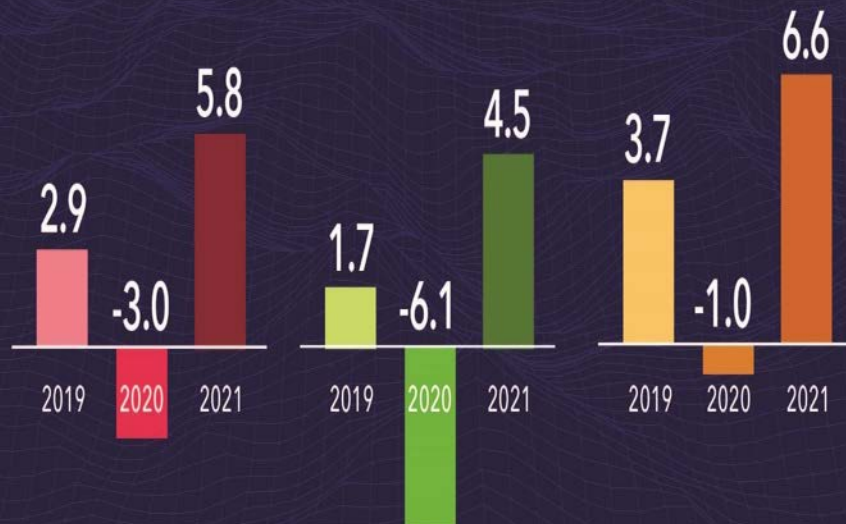
成長率予測

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による保健危機が
2020年の経済活動に深刻な影響をもたらすだろう

世界GDP

先進国・地域

新興市場国と
発展途上国



世界経済見通し(WEO)による 最新の成長率予測

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行が
どの地域でも経済成長率に深刻な影響を与えるだろう

予測

(実質GDP、年間の増減率、%)	2019年	2020年	2021年
世界GDP	2.9	-3.0	5.8
先進国・地域	1.7	-6.1	4.5
アメリカ	2.3	-5.9	4.7
ユーロ圏	1.2	-7.5	4.7
ドイツ	0.6	-7.0	5.2
フランス	1.3	-7.2	4.5
イタリア	0.3	-9.1	4.8
スペイン	2.0	-8.0	4.3
日本	0.7	-5.2	3.0
イギリス	1.4	-6.5	4.0
カナダ	1.6	-6.2	4.2
その他の先進国・地域	1.7	-4.6	4.5
新興市場国と発展途上国	3.7	-1.0	6.6
アジアの新興市場国と発展途上国	5.5	1.0	8.5
中国	6.1	1.2	9.2
インド	4.2	1.9	7.4
ASEAN原加盟国5か国	4.8	-0.6	7.8
ヨーロッパの新興市場国と発展途上国	2.1	-5.2	4.2
ロシア	1.3	-5.5	3.5
ラテンアメリカ・カリブ諸国	0.1	-5.2	3.4
ブラジル	1.1	-5.3	2.9
メキシコ	-0.1	-6.6	3.0
中東・中央アジア	1.2	-2.8	4.0
サウジアラビア	0.3	-2.3	2.9
サブサハラアフリカ	3.1	-1.6	4.1
ナイジェリア	2.2	-3.4	2.4
南アフリカ	0.2	-5.8	4.0
低所得途上国	5.1	0.4	5.6

出所:国際通貨基金(IMF) 2020年4月「世界経済見通し(WEO)」

災禍の傷跡：変化する思考

- 健康の価値認識、経済的懸念のジレンマ（With Corona）
- 働き方の変化（在宅勤務の拡散、コミュニケーションの変化）
- 持続性の価値向上（環境、食糧、健康…）
- 分散か、集積か
 - ← 人と人の接触機会削減（都市＞地方）
 - ← ICT技術の進化と普及
 - ← グローバルなサプライチェーン再編（安定供給＞効率供給）
 - ← 自給率、効率備蓄、効率供給（Resilience）
 - ← 関税＜技術標準、安全基準

ポストCovid-19: 新たな消費者の価値

- **Back to the Basics** : バブル型消費の崩壊、相対的に浮上する日常の財・サービス（食品vs外食、日常衣料vs外出着、デリバリーvs旅行....）
- 安心の確保：健康・食 > 教育・趣味/娯楽
- 選択的消費：経済圧力、安心懸念、地域性への回帰
→ 食品廃棄の削減、食と健康のリンク、価格－価値バランス
- 消費スタイルの変化：E-commerceの普及（欧米中）・定着（日？）
⇔マーケティング手法の変化、AI応用（中国の技術的リード）
- 地域性の復活：安心できる店、流通の安定性、相互扶助
- 新たな需要の拡大：会議ソフトやサービス、仮想現実、安全追求（Tracker）

21世紀の産業政策（Rodrik(2004)以降）

- 産業政策の新機能：自己発見（Self-recovery）、調整の失敗補正、リスク軽減
- 新産業政策の指針：
 - (1)新しいことへの集中（≠中小企業政策）
 - (2)成功と失敗の基準設定
 - (3)失敗事例からの撤退基準
 - (4)政府介入は産業ではなく機能に（≠産業、人的資源投資等）
 - (5)新しい官民協調：情報共有による調整機能強化（バリューチェーンの確認、支援）→政策ニーズの発見（政府）、事業環境改善（企業）、対外交渉

新しい食品産業育成

- 東アジアの戦略性（東アジア基準のリード、データ開示と広報能力の抜本的強化、開放性確保（Beyond “All-Japan”）
- 官民協調による新価値発見
 - ← 安全・安心の提供：研究開発における産官学体制の改善
 - ← サプライチェーンの点検（流通・小売り、コンサルティング、教育との新連携、付加価値の発見（→機動的規制緩和、ビジネスモデルの保護）
 - ← 消費者情報のインターフェイス研究（SNS、消費者団体動向、ブランドの価値源泉調査、農業研修生：改革対象を「資産」に）
- 官民協調によるリスク軽減
 - ← インバウンド観光・外食進出連携の見直し（当面）
 - ← 新しい実験としての国内観光、六次産業育成、国際移転